

1 年次演習

担当・濱本正太郎

shotaro@kobe-u.ac.jp

<http://www2.kobe-u.ac.jp/~shotaro/>

概要

„Deine Zauber binden wieder was die Mode streng geteilt. Alle Menchen werden Brüder wo dein sanfter Flügel weilt.“ (「あなたの聖なる力は、この世の習わしがはっきりと分け隔てたものを結びつけ直す。すべての人は、あなたの穏やかなる翼の下で、兄弟となる。」 Friedrich von Schiller 原作、Ludwig van Beethoven 改作、「An die Freude (歓喜に)」、Beethoven 交響曲第9番第4楽章。濱本訳)

「教室はきれいに」という掲示があるのは、その教室がきれいでないからである。「みんなみんな、生きているんだ友達なんだ」と説教されるのは、みんなが友達ではないからである。とはいえ、「人類皆兄弟」とまでは言わないにしても(兄弟だったら仲がいいかどうかはさておき)、せめて近所の人とぐらいいは仲良くできないものだろうか。

ところが、世の中の現実はなかなかそうはいかない(「汝の隣人を愛せよ」(マタイ福音書 22章 39節)。2008年2月、コソヴォは独立を宣言した。セルビアの人たちと一緒に生きていくのはどうしても嫌だ、というのである。3月には、中国からの独立を求める人々がチベットで暴動を起こし、中国政府はそれを実力で抑え込もうとしている。しかも、このような例はコソヴォやチベットに限った話ではない。なぜ、私たちは「みんな仲良く」できないのだろうか(「以和為貴」)。

この演習では、一つの政治集団を形作る「人民 people/国民 nation」の範囲の決め方についての先人の議論を振り返り、現在、世界各地に存在している分離独立運動について調べ、考える。大量の文献に取り組むこと、そして、世界を相手にするので英語文献もどんどん出てくること、ぜひ楽しみにしておいていただきたい。世界に目を向けた人、世界から日本を見てみたい人、英語読解力を鍛えたい人、一つのテーマを掘り下げたい人、知的好奇心に満ちあふれている人、みなさん大歓迎である。

演習計画

- 第1部 「人民／国民」はどのように生まれたか——読解と討論
- 第1回 導入——今、コソヴォで、チベットで
 - 第2回 フィヒテ対ルナン——「人民／国民」は戦争の灰から生まれた
 - 第3回 レーニン対ウィルソン——20世紀を決めた2人
 - 第4回 カール・シュミット——あなたは私の友か敵か
 - 第5回 ベネディクト・アンダーソン——すべては私たちの記憶の中に
 - 第6回 ウォーラーステインとバリバール——資本主義の中の人民
 - 第7回 人民の自決権——「自分」が「決める」ということの意味
- 第2部 現代世界における「人民」の苦闘——調査と報告
- 第8回 北アイルランド——ベルファストの壁は神が造りたもうた
 - 第9回 バスク——テロは犯罪か抵抗運動か
 - 第10回 チベット——孤立無援の人民
 - 第11回 ケベック——自分で決めることを許されない人民
 - 第12回 ニューヴェル・カレドニー——21世紀に残る植民地の苦悩
 - 第13回 ベルギー——多文化共生は夢か幻か
 - 第14回 コソヴォ——マトリョーシカは開けられた

第1部 読解と討論

第1部では、演習で取り扱うテーマに関する代表的な文献を読み、その内容を理解することに努める。そのため、毎回、短いレポートを課す。

第2回から第6回までの提出課題

- ・課題文献を熟読し、1000字以内で要約する。課題文献が複数ある場合であっても、全部で1000字以内にとどめること。
- ・MS Wordあるいはテキストファイルで作成し、講義前週の金曜日17時までに、濱本にe-mailで送付する(shotaro@kobe-u.ac.jp)。

演習時には、課題文献の内容について、全員で討論を行う。

第7回は、第1部と第2部とをつなぐ内容である。まとまった文章を読むのではないので、上記の提出課題は課さない。

第1部終了時に、「成績評価において30%の重みを与えられるレポート」の第1回分(10%相当)を提出する。

第1部終了時の提出課題

- ・第2回から第6回までに採り上げた文章のいずれか(同一著者による複数の文章を採り上げた場合は、そのすべて)を選択し、1000字以内で要約し、1000字以内でそれを批判する。
 - ・執筆者の個人的見解の如何に拘わらず、採り上げた文章を批判すること。
 - ・批判する際には、反批判を予想し、それに耐えられる内容にすべく努力すること。
- ・MS Wordあるいはテキストファイルで作成し、第7回講義開始時まで、濱本にe-mailで送付する。

第2部 調査と報告

第2部では、3名程度のチームに分かれ、一つの事例について資料を探し出し、その事例において何が問題になっているかを明らかにし、口頭および文章により報告する。

調査の過程で必要を感じる場合には、遠慮なく担当教員に質問されたい。演習外で会って相談する必要がある場合には、事前にe-mailで連絡し、日時を確定すること。

第2部における課題

報告チーム

- ・報告担当回の2回前の演習時に、他のメンバーが読んでおくべき文献を濱本に伝える。特に分量は指定しない。
- ・報告担当回では、分離独立をめぐる紛争という観点から、
 - ・事実関係
 - ・問題について30分でPowerpoint等を用いて報告を行う。報告は、できるだけチームの全員で分担するようにする。
- ・報告の際には、聞き手の理解を助ける「レジュメ」を配布する(「レジュメ」とは、報告の構成・内容を要約したものであり、この演習においてはA4・1枚で作成すること)。

報告を担当しない者

- ・上記の「読んでおくべき文献」が1回前に配布されるので、熟読し、報告に基づく討論に参加する。

報告およびそれに引き続く討論で得られたことを参考にして、当該事例について、最終レポートを作成する。これが、「成績評価において30%の重みを与えられるレポート」の第2回目(20%相当)である。

第2部終了時の提出課題

- ・一人一人でなく、チームで一つのレポートを作成する。
- ・1万字以内(注を含む)。
- ・文献引用法は、「法律文献等の出典の表示方法」に従う。
- ・MS Word(または一太郎)で作成し、8月11日(月)午前9時までに、濱本にe-mailで送付する。